

PRAEVIDENTIA DAILY (4月22日)

昨日までの世界：ドルが強含み

昨日は、多くの市場が休場で全般的に小動きだった中、対主要通貨でドルが相対的に強含みの展開となった。ドル/円は、東京時間朝方発表の本邦3月通関貿易収支が-1兆4463億円と市場予想を上回る赤字だったことから円売りが先行し、一時102.71円へ上昇した。その後は再び102円台半ばに反落したが、欧米時間は102円台後半で強含みの展開となった。通常は注目度は低いが、米景気先行指数が前月比+0.8%と市場予想を若干上回ったことなども、ドル買い材料とされたようだ。その他、ユーロやNZドルも対米ドルで軟調となった。ユーロを巡っては週末にECBが無制限の債券購入も含めて量的緩和を検討しているとの独有力週刊誌 Spiegel が報道していたことも、ユーロ軟調の一因だった可能性がある。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.00	-0.00	+0.00	-0.02	-0.01	+0.01	+0.4	-0.0	+0.1	+0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	+0.00	+0.00	-0.00	+0.01	+0.00	-0.01	+0.0	+0.4	+0.4	+0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.0	+0.00	+0.00	-0.00	+0.01	+0.00	-0.01	+0.0	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.1	+0.00	+0.00	-0.00	+0.01	+0.00	-0.01	+0.4	-1.5	-0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	+0.04	+0.04	-0.00	+0.01	+0.00	-0.01	+0.4	-1.5	-0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.1	+0.00	-0.00	-0.01	-0.01	-0.01	+0.00	+0.4	+0.1	-0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：欧米の材料は拮抗

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、EUR/JPY↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
米3月中古住宅販売件数	23:00	460万件	456万件	
ユーロ圏4月消費者信頼感・速報	23:00	-9.3	-9.3	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は欧州も含め海外が休場明けとなるが、今週は明日に重要指標が集中している中で本日は材料が少ない。米国で中古住宅販売件数が発表されるが、456万件と更に減少する見込みで、既に発表され中古住宅販売件数の先行指標となる中古住宅販売成約件数も前年比で減少が続いており、それと整合的な予想で、どちらかというドル上値抑制要因だ(下図を参照)。米国では2011年以降、住宅市場主導で景気回復が進んでいたが、昨年以降はモーゲージ金利の上昇もあって改善一服、横ばい傾向が続いている。労働市場の改善からくる需要増と、金利上昇からくる需要減の効果が拮抗している状況とみられ、目先、住宅市場は米国の長期債利回りや為替市場を大きく動かす材料とはなりにくいだろう。ドル/円に強い方向感はなく、引き続き2月以降の102円を挟んだ横ばい圏内の動きが続こう。

他方、為替市場での注目度は相対的に低いが、ユーロ圏消費者信頼感指数も発表される。予想は前月と同水準の-9.3と、水準としてはマイナスだが過去と比較すると高水準で、小売売上高(前年比)と連動性が高いこともあって経済指標としての重要度は高い(下図を参照)。但し、PMIやドイツのIfo、ZEWなど企業景況感にピークアウト感がみられていること、比較的連動性が高く一因になっているとみられるユーロ圏株価(EURO STOXX)も伸び率が高まっておらず、失業率も12%前後で高水準が続いていることから、消費者信頼感もそろそろピークに達し反落するリスクがあるとみられる。このため、欧米共に芳しくない指標結果が予想される

中、ユーロ/ドル相場はもみ合いの展開が予想される。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641